

Y's Men International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMI ワールド
2020-2021 No.3
日本語版



国際書記長から：2020年のワイズメン運動 挑戦と変革の一年／国際協会ニュース：国際選挙結果・国際協会本部一定住地構想／YMCAとの相互関係 YMI、YMCAそして「世界展望」の考え／マイクロ・ヒストリー：YMIにおけるファミリー・クラブ コンセプトから実践まで・ワイズメンズクラブ国際協会国際議会 歴史的視点から／考えていること 人生がもたらすものを認める度量を持つ／地域からのニュース：インド、日本、デンマーク、英国、ボリビア、ホンコン、エストニア、米国／第一人者 今を受け入れるということ コロナの時を私は、どのように活用したか／思い出の場所 思いで深いスリランカへのBF訪問／魂の真言 木が倒れる時

編集長のページ

読者の皆さまへ



1年前の3月、コロナウイルスの急速な感染拡大により、世界は大混乱に陥りました。ほとんどの国が国境を封鎖し、国内に封じ込めることを宣言しました。すべての交通手段がストップし、人々は、自宅や訪問先に閉じこめられてしまいました。特に、このよう

な孤立状態を生き延びる手段を持たない人々の多くは、家族や親族のいる家に帰りたくと願っていました。その過程で、インドの多くの人々は、徒歩で道路に出て、かつての大規模な移民を思い起こさせる最悪の苦難を経験しました。

それは、遠い昔のことのようにですが、世界各国で複数の企業がワクチンを大量に製造したことで、希望が見えてきました。その希望の光に酔いしれ、日常生活に戻り始めた矢先、第3の、あるいは第4の、新型コロナウイルスの波が押し寄せているというニュースが飛び込んできました。インドでは、昨年のクリスマス以降初めて、報告された患者数と確認された患者数が連日急増し、2万4千人を超えました。この記事を書いている時点(2021年3月15日)では、インドは、ブラジルと並んで、それぞれ1,140万人の患者数で第2位となっており、2,950万人の患者数でトップの米国に次ぐ規模となっています。判明しているデータによると、過去1年間で、世界中で1億2,000万人以上の患者が発生し、265万人が死亡しています。

この憂鬱さと不確実性の中で、多くのポジティブな出来事も記録されています。その一つが、テクノロジーの大きな可能性を活用して、自宅で、あるいはどこにいても仕事をするという文化の導入です。私たちは、パンデミックの影響を受けた人々を救済するために、クラブメンバーを通じて世界各地の人々の苦しみに対応することができました。また、テクノロジーの利点、特にZoomの環

境を最大限に活用することができました。より多くの定期的なミーティングが開催され、より多くの情報を提供するウェブによるセミナーが行われ、より多くの人々が私たちの運動に参加しました。これは大きな恵みです。

今号のYMI ワールドは、個々の寄稿者による考察、思い出、経験、歴史的な視点、そして地域社会を助けるためにクラブが現場で行っていることを紹介する地域からのニュースを織り交ぜています。今号の表紙は、ワイズメンズクラブとタイのYMCAが、西村隆夫元国際書記長の指導の下、共同で行った取り組みを紹介していて、YMIとYMCAが持つ「相互関連性」を例示しているという意味で、特別なものとなっています。

私たちは、絶望と希望のサイクルが終わりのないものであることを知っています。イギリスの詩人シェリーは、「冬来たりなば、春遠からじ」と、それを見事に表現しています。このパンデミックの時代が冬だとすれば、私たちの春は、お互いの交わりを楽しみながら、新しいライフスタイル、「ニューノーマル」を発見することに違いありません。

コシー・マシュ

私の本棚から

サピエンス:人類の歴史(ユヴァル・ノア・ハラリ著)

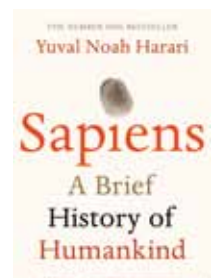
10万年前、地球上には少なくとも6種類の人間が住んでいました。今ではたった1つです。私たちです。ホモ・サピエンスです。私たちの種はどのようにして覇権争いに成功したのでしょうか?狩りをしていた祖先たちは、なぜ一緒に都市や王国を作ったのか?どのようにして私たちは、神、国家、人権を信じ、お金、本、法律を信用し、官僚主義、スケジュール、消費主義の奴隷となるようになったのでしょうか。そして、これから数千年後、私たちの世界はどうなっているのでしょうか?

ユヴァル・ノア・ハラリ博士は「サピエンス」の中で、地球上を歩いた最初の人類から、認知革命、農業革命、科学革命の急激な、そして時には壊滅的なブレイクスルーに至るまで、人類の歴史全体を網羅しています。

生物学、人類学、古生物学、経済学などの知見をもとに、歴史の流れが人類の社会、身の回りの動物や植物、そして私たちの人格をどのように形成してきたかを探ります。歴史の流れの中で私たちは幸せになったのでしょうか?祖先の遺産から私たちの行動を解放することはできるのでしょうか?そして、これからの世紀の流れに影響を与えるために、私たちにできることがあるとすれば、それは何でしょうか?

大胆で、広範囲で、挑発的なこの本は、人間であることについて知っていると思っていたことすべて、思想、行動そして未来に疑問を投げかけます。

(Goodreadsのレビューから)



表紙: 1995年に日本の神戸YMCAから寄贈された Ruen Thai という名の古い木造家屋で 2021年3月6日にオープンした [Y-Forest Coffee House] の前で、Ahka 部族の学生ダンサー、チェンマイ、チェンライ、バンコクのワイズメンズクラブのメンバー、YMCAのメンバーたち。P7 参照。

ワイズメンインターナショナル公式誌

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長: コシー・マシュ

日本語版翻訳グループ: 田中博之(委員長、東京多摩みなみ)、

青木一芳(千葉)、朝倉正昭(東京世田谷)、

今城高之(横浜つづき)、利根川恵子(川越)、

太田勝人(東京町田スマイリング)、比奈地康晴(東京)、

倉田正昭(京都)、田尻忠邦(大阪)、谷川寛(大阪センテニアル)、

谷本秀康(広島)、中井信一(奈良)

印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

2020 年のワイズメン運動:挑戦と変革の一年



2020 年という年を何と形容できるでしょうか?百万以上の命がパンデミックによって失われ、原油価格は、低迷し、世界各地の街頭は、抗議のデモで埋め尽くされました。同時に、何十年分の技術発展がわずか数か月間に起こり、今やワクチン接種が記録的な速さで普及しています。まさに挑戦と変革の一年でした。

2020 年を何の年と定めるのは難しいですが、この年は、確実に私たちの未来を定めたと言えます。

ワイズメンズクラブ国際協会にとってこの年の異常な挑戦は、真の試練でしたが、ワイズ運動の健全さを証しするものとなりました。私たちは、事態に順応し、変革する能力をもち、回復力のある組織であることをはっきりと証明したのです。悲しいことに新型コロナウイルスは、何人かのワイズの仲間の命を奪いました。しかしながら、ありがたいことに大多数の者は無事で、デジタル媒体により結ばれています。ジュネーブの国際本部とチェンマイのサテライトオフィス双方のスタッフは、政府や保健当局の要請をきちんと守って、主に在宅勤務を続けています。

私たちは、2020 年国際大会を含むすべてのレベルのリアルな会合を、開催延期にするか中止するか判断を迫られました。多くの不確定要素をもったこの空前の時期、「新常态」が、私たちを悩ませながらも、前へ前へと進ませてくれました。ウィンストンチャーチルの言葉どおり「悲観論者は、転機に会うたび困難を感じるが、楽観論者は、困難に会うたび転機を見出す」のです。運動体として私たちは、困難克服の力を信じます。私たちは、変えられないものにこだわって嘆いている暇はありません。この一年は、まさしく、転機をものにするためのエネルギーと心構えを獲得する、変革の期間だったのです。

オンラインであっても通常活動

YMI の年央会議は、2021 年 2 月 19-21 日にオンラインで開催されました。国際執行役員、現と次期の地域会長、国際事業主任、各委員会の委員長、それに職員、通訳が参加しました。国際執行役員と次期地域会長だけが出席する従来のこの会議の形態からは大きな変革でした。この年央会議は、新型コロナウイルス禍の中にあっても YMI が全レベルで回復力を持っていることを示す機会となりました。直近 6 か月間に、クラブ拡張の分野では 5 つの地域で計 25 のクラブの国際協会加盟を果たしました。ホンジュ

ラスがワイズの存在する新しい国になりました。IBC 分野では、オンライン交流によるいくつもの新たな兄弟関係締結と、従来の関係の強化を目撃しました。トレード中央クラブから意義深い提唱がなされています。同クラブは、世界最初のワイズメンズクラブとして、世界の全 8 地域のそれぞれ最初のクラブと IBC 関係を結ぼうとしているのです。

私たちの運動は、今の困難な時も、世界 YMCA 同盟連帯基金やボランティア奉仕により YMCA への支援を増強しています。

マニュアル審査委員会は、いくつかの基本的なマニュアルを改訂して現状に適合させる作業を成し遂げました。今夏の国際議会のための新マニュアルの作成も終わりました。

ワイズ創始者ポール・ウィリアム・アレキサンダー記念の遺産事業基金作りを活性化し、国際本部のオフィスを購入し、また、この事業遂行のために計画されていることを完遂しようとしています。国際協会 100 周年の資金作りの一環として、クラブ会員および YMI 支援者から一口 2,500 米ドルの寄付を頂いて「名誉会員」の称号を贈るキャンペーンを始めました。

国際プログラムの義務目標を達成

会員の皆さんの惜しみない貢献により、世界規模でマリア制圧を進める「グローバルファンド」に 10 万米ドルというまとまった寄付を贈ることができました。

私たちはまた、デジタル通信の強化により、言語の違うクラブ会員にも情報を直接届けることができました。YMI は、オンライン基盤を通じて支障なく国際選挙を実施し、クラブの投票率 86.7% という結果を得ました。

TOF では、世界中で実施中の 28 の事業に資金配分を続けることができました。年度内の BF 代表の派遣については実施が困難になったので、従来の旅費支給に代わる、別のカテゴリーの支援金を支給するという臨時の措置を取りました。

ジェイコブ・クリステンセン国際会長の卓越した指導力に感謝を表します。同会長の働きを、他の執行役員、地域会長、国際議員、区理事、事業主任、部長、クラブ役員の皆さんが、YMI のために無私の精神で支えています。私たちワイズ運動のすべての指導者がワイズメンの魂に点火し、それを会員皆さんが赤々と輝かせていることに敬意を表しましょう。ワイズメンズクラブ国際協会は、2022 年に存立百年を祝う準備の最中です。この奉仕団体の会員であることを素晴らしいと実感する時です。この祝典に参加しましょう! ワイズメンであることを誇りにしましょう!

国際書記長 ジョース・ヴァルギース

国際選挙結果

今年度の YMI の国際投票の締め切りは、2021 年 1 月 29 日でした。選挙結果は、2021 年 2 月 18 日に開かれた国際書記長、国際常任役員の会合で承認されました。締め切り日までに 765 クラブが国際役員選挙の投票を行いました。投票権のある 882 クラブの内 765 クラブが投票し、投票率は、86.7% でした。

2021-2022 年度の次期国際会長



K・C・サミュエルは、1981 年にワイズ運動に参加し、組織の各種のレベルでのプロジェクトや活動に数々の貢献と寄付を行いました。その中には、ポール・ウィリアム・アレキサンダー遺産プロジェクトへの多額の寄付が含まれます。サミュエルは、クラブ会長を 2 度、1996 年 -1997 年には部長、2008 年 -2009 年には理事、2018 年 -2019 年にはインド地域会長を務め、2018 年から 2020 年までは国際議員を務めました。

仕事の上では、ケララでの勉学後、インド政府の民間飛行協会から航空機メンテナンスライセンスを与えられ、現在は、インド航空機協会の準メンバーを務めています。

サミュエルは、1983 年にインドで初の航空力学の研修所を設立しました。この研究所で履修する事により、インドでの航空機メンテナンスのライセンスを取得することが出来ます。その後、ヒンドスタン協会の名前の下でビジネススクールと、電子工学学校を設立しました。現在は、これらの 3 つの組織の会長を務めています。

新国際議員



アフリカ地域: ヴィクター・バンム・ディリ・ジャトウ (北西アフリカ区) は 2021 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの期間の次期地域会長 / 次期国際議員、2022 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日までの期間の地域会長 / 国際議員に選ばれました。



アジア太平洋地域: シェン・チー・ミン (チャーミング) (台湾区) は 2021 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの期間の次期地域会長 / 次期国際議員、2022 年 7 月 1 日から 2023 年 6 月 30 日までの期間の地域会長 / 国際議員、2023 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日までの期間の直前地域会長 / 国際議員に選ばれました。



ヨーロッパ地域: ヴィリー・モール・ガード (デンマーク区) は 2021 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの期間の次期地域会長 / 国際議員、2022 年 7 月 1 日から 2023 年 6 月 30 日までの期間の地域会長 / 国際議員に選ばれました。



インド地域: ジョイ・アラパット (中央西インド区) は 2021 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの期間の次期国際議員、2022 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日までの期間の地域会長 / 国際議員に選ばれました。



インド地域: アナンド・ジェイコブ・ヴェルギース (南インド区) は 2021 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの期間の次期国際議員、2022 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日までの期間の地域会長 / 国際議員に選ばれました。



インド地域: シュクール・ヴェリーール・A・ベーカー (南西インド区) は 2021 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの期間の次期国際議員、2022 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日までの期間の地域会長 / 国際議員に無投票で選ばれました。



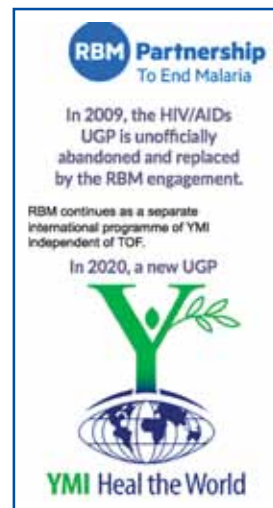
韓国地域: キム・ハンセプ (韓国南区) は 2021 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの期間の次期地域会長 / 国際議員、2022 年 7 月 1 日から 2023 年 6 月 30 日までの期間の地域会長 / 国際議員に無投票で選ばれました。



ラテンアメリカ地域: ナタリア・ノバック (ブラジル区) は 2021 年 7 月 1 日から 2023 年 6 月 30 日までの期間のヤング国際議員に無投票で選ばれました。



ラテンアメリカ地域: ジュリアン・デル・ソーサ (ブラジル区) は 2021 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までの期間の次期地域会長 / 国際議員、2022 年 7 月 1 日から 2023 年 6 月 30 日までの期間の地域会長 / 国際議員に無投票で選ばれました。



国際協会本部一定住地構想

国際会計 フィリップス・K・チェリアン



どんな組織においても、家賃や光熱費など、繰り返し発生するコストの不確かさの脅威から逃れることはできないことから、組織にとって本部を安全な場所に設置することは極めて重要なことです。政治的安定と経済的安定のふたつは、最も重要なパラメーターと言えます。

議論をさらに進めると、私たちの国際協会は、確かに他の奉仕団体に比べて規模は小さいものではありませんが、ほぼ一世紀にわたり、意義深いサービスを人類に提供し続けることが出来たことに感謝しなければなりません。これは、並大抵のことではありません。この運動の重要性は、時を経て証明され、歴代の世代に恩恵をもたらしてきました。100周年を迎える2022年に、私たちは、このことを再確認し、祝う必要があります。

2022年の挑戦に向かって

100周年の様々なお祝いの一つは、私たちの活動の舵を取る定住地を持つことです。この100周年記念の年は、私たちがここに留まることを世界に向けて発信する最も適した時だと思われます。この機会を、これまでの100年間に亘る数々の指導者とその貢献に深く感謝する格好の機会であることは別に、私たちの組織の長期展望に対して残っている悲観論を消し去ってくれるでしょう。

収益が減少する投資への依存や家賃その他経費の高騰は、長期的には経済的に成り立ちません。定住地への投資というシナリオは、私たちが家賃の高騰から守ってくれます。例え短期的には投資による経済的な痛みはあるでしょうが、不動産の価値を高めることは理想的です。

多くの人は、「どうやって初期投資を賄うのか?」と問うでしょう。私たちは、「チャレンジ22」計画の延長を行い、約百万米ドルの基金積み上げに着手しました。もし、全ての情熱をもってこれを実現できたら、私たちが定住地と呼ぶことのできる適当なフロアスペースをジュネーブに持つことが出来るでしょう。現在のパンデミックのこの時期は、不動産価格は、落ち着いていて、あるいは値下がりしていて、近い将来の上昇が想定されないこの時期は、不動産探しに適切な時期と思われます。

エリアの指導者および一般のクラブメンバーは、前を向いて、私たちは、「ホーム」と呼ぶべき資産を持っていると語り、そこに関わっていること

を誇りにすることが出来るでしょう。それは、皆に動機を与え、誇りに思うことになるでしょう。

平和都市ジュネーブ

そこで誰かが、なぜジュネーブなのか、と尋ねるでしょう。確かに、かつてジュネーブにあったいくつかの国際機関が、本部を南半球やアジアなどに移したケースがあります。それら機関の「国際性」に結局何が起こったのかを細かく調べる価値はあります。いくつかの組織は、政治的不安定さや理解に苦しむ経済的現実と戦っていますし、いくつかは、既に忘れ去られてしまいました。

スイスのジュネーブを候補地として選ぶのは、純粋に、スイスの政治的中立性によるものです。この中立性は、幾つかの国連機関に適しています。ジュネーブの街自体、38に及ぶ国際的な機構、団体を受け入れており、実に750に及ぶNGOが存在します。ここ以外に、より優れたYMIの本部所在地が望めるでしょうか。

この国際機関の地に所在するということは、単に威信や国際感覚を付け加えるということだけではなく、私たちが同じような思いを抱く様々な国際機関、例えば、私たちのパートナーである世界YMCA同盟、グローバルファンド、RBMや、私たちが協議資格を有する国連の経済社会理事会などとのさらなる協力関係を促進するものです。これら全ては、真の国際機関としてのYMIの資質を高めるものとなります。



空からのジュネーブ湖と街並み

国際協会本部の米国からスイスへの移転

1925年から1962年までの間、国際協会の本部は、マサチューセッツの、国際協会の初代ボランティア会計で後に協会のフルタイムの職員となったヘンリー・グラ임スの自宅地下にありました。

彼の死後、協会の本部は、イリノイ州のジョージ・ウイリアムズ大学に程近いダウナーズグループの賃貸事務所に移転しました。指導者によって恒久的本部ビルの必要性が確認され、資金調達のためのキャンペーンが開始され、最終的に、イリノイ州オークブロックに本部ビルが建設されました。

組織が国際的活動を行うように発展するなか、指導者およびメンバーは、本部の移転を決め、既に世界YMCA同盟の本部であったスイス、ジュネーブのジョン・R・モットビルへの移転を決定しました。現在、国際本部は、ジュネーブのジュネーブYMCAの中に置かれています。

(出典:「奉仕のフェローシップ」(75周年版))

YMCA との相互関係

「人は、その視野の広さで測られる」
YMI、YMCA そして「世界展望」の考え - 共通のつながり

元地域会長 / 国際ヒストリアン事業主任 デビー・レッドモンド



ポール・ウィリアム・アレキサンダーは、それぞれのワイズメンズクラブの価値は、「YMCA」、「コミュニティー」、「世界」の3つの重要な側面を含めるべきであると常に感じていました。しかし、1923年には、基本的に各クラブは、YMCAと自分たちの住む地域へのクラブの固有の奉仕活動に焦点を当てていたことが明白になりました。

1924年、最初の海外クラブ（中国・上海）の誕生と、そのクラブの創設者であるK・F・ラムがこの年の大会に出席したことで、「海外の分野でYMCAにより奉仕するにはどうしたらよいか」というフォーラムのアイデアが生まれました。その大会での議論と出席者の関心は、企画委員会に議論を続けるよう促し、次の1925年の大会では「海外の分野でYMCAに奉仕する権利」をテーマにしたフォーラムが開催されました。同じ年、カナダのオンタリオ州ロンドン出身のバイロン・スウェイジは、フィンランドのヘルシンキで開催された世界YMCA大会にワイズメンの代表として出席することができました。

更に話し合いが継続し、カナダYMCAとアメリカ全米協議会でのワイズメンの関与が増していき、世界YMCA同盟でのワイズメンの何人かの関与もあり、これらの点に焦点を当てる必要性が認められ、1927年には、国際会長のエドガー・J・マッコイは、「世界展望」（World Outlook）と呼ばれた委員会を立ち上げ、ポール・ウィリアム・アレキサンダーに委員長への就任を要請しました。この委員会が「人は、その視野の広さで測られる」というスローガンを採択したのです。1927年に世界YMCA同盟の指導者であるジョン・R・モットは、以下のように書いています。

「旅行して分かったことですが、ワイズメンクラブの活動は、YMCA運動にとっても最も重要なものの一つです。それは、おそらく他の何よりも会員の義務と責任に現実性を持たせています。さらに、真の意味での親睦と兄弟愛の精神を生み出し、維持する上で、非常に重要な役割を果たしています。」

それから6か月以内に、この「世界展望」委員会は、政治面、経済面、社会面、宗教面、実際の状況、YMCAの状況において、海外の現状およびどのように発展を遂げているかを知り、興味を持つことを委員会の目的とすることを発表しました。

この委員会は、1928年と29年の世界YMCA大会に積極的に参加することで一層活発となり、1928年に開催されたワイズメンズクラブ国際大会に向けて詳細なレポートが提出され、各クラブは、それを遵守するよう具体的なプログラムも開

ジョン・ラレイ・モット (1865.5.25 – 1955.1.31)



モットは、永年にわたってYMCAおよびWSCF（世界学生キリスト教連盟）のリーダーでした。1946年にエミリー・ベルクと共に、平和を推進する国際プロテスタント学生組織を立ち上げ、強化したことへの貢献によってノーベル平和賞を受賞しました。1895年から1920年までWSCFの総主事を務め、1948年には世界教会協議会設立に深く関わり、終身名誉会長に選ばれました。

アッパーアイオワ大学にて歴史学を専攻し、討論にも優れ、栄誉賞を受賞しました。その後、コーネル大学に進み、1888年、同大学にて学士号を取得。1915年から1928年YMCA国際委員会の総主事を務め、1926年から1937年まではYMCA世界委員会の会長を務めました。

第一次世界大戦中、YMCAは、時のウイルソン大統領を支えましたが、彼は、全国戦争事務所の総主事を務め、卓越した業務遂行によって勲章を授与されました。YMCAのためには、出来る限り海外との接触を続けて、多くの国での戦争捕虜者に対する支援活動に携わりました。彼は、ウイルソン大統領からの中国大使就任要請を断っていましたが、1916年にはメキシコ委員会のメンバーとして、1917年にはロシアへの特使の一人としての務めを果たしました。

発されました。

1929年開催の国際大会にてポール・ウィリアム・アレキサンダー元国際会長は、「私たちの『世界展望』の次のステップ」と題してスピーチを行い、各クラブが最初にやることとして国際問題にもっと関心を持とう」と呼びかけました。彼は、会員の皆が「黄金律」を適用することができることを望みました。続いて、次のように語りました。

「ワイズメンの皆さん、他の民族および国への純粋な興味をはぐくむことは、素晴らしいことです。私たちは、視野を広げていくことが大いに望まれています。異人種間の偏見をなくし、国際的な態度を正すことは、正しい方向への大きな一歩です。しかし、これらのことは、必然的で避けられないこと、つまり、キリストの理想である国際的、異人種的な正義が地上で達成されるためには、私たちとすべての仲間の市民が、不愉快なこと、実際の社会的、経済的、政治的な犠牲を覚悟しなければならないことに比べれば、とても小さなことです。」

1940年にかけて、元国際会長チャールズ・ミラーは、世界展望委員会の目的は、「ワイズメンに、はじめに世界は隣人であることを認識させ、次に隣人として、一つでも、二つでも何かを行わせること」と語っています。

世界展望委員会の活動の結果、現在でも、BF（当初はBishop's Fund）、私たちの組織の名称の「国際」という意識を高めるために万国旗のセットをクラブに分配すること、兄弟クラブ、YEEPやSTEPプログラムを通してのユースとの活動などが、活発に行われています。

タイ王国:北部タイの山岳民族の子供たち 国境を越えて「Y」ができる資源活用

西村隆夫 直前国際書記長

アカ山岳民族の子供たちは、ミャンマーとの国境に近いタイ北部のチェンライ県などの地域に居て、彼らがこのユニークな試みの「Y-森のコーヒー」ブランドとそのコーヒー・ハウスから支援を受ける事が出来る直接の受益者たちです。



「Y-森のコーヒー」は、近年開発された「Y」のプログラムで、2019年にチェンライのYMCAとワイズメンズクラブが共同で推進し、チェンマイとバンコクのYMCAと、地元のコーヒー焙煎会社であるオリエンタル・ファズ社やワイズメンズクラブが支援してきました。その目的は、タイ北部で栽培されたアラビカ・コーヒーの素晴らしい味と香りを楽しみながら、YMCAのコミュニティ・サービス・プログラムを持続可能な支援を創造することです。

2021年3月6日、この「Y-森のコーヒー」ハウスは、もと1995年に神戸YMCAから寄贈され、神戸の若者たちの助けを借りて建てられたルエン・タイと呼ばれる古い木造の小屋を利用したオープンとなりました。YMCAで子供たちがプログラムやクラスを終えるのを待っている間など、多くの家族たちも利用するコーヒー・ハウスとして生まれ変わりました。

神戸、熊本、大阪などの都市YMCAとワイズメンたちは、現在、日本でこれらのコーヒーを販売し、思いを共有しています。このコーヒー・プロジェクトの背後にある使命は、子供たちがチェンライの「Wakatake ホーム」(Wakatake は日本語で「若い竹」を意味する)と呼ばれる寮から、より多くの子供たちが学校に通うことができるようにすることです。海外のYMCAを含むワイズメンズクラブで販売されるコーヒーもコーヒー・ハウスでの販売の収益も、アカ山岳民族の子供たちを支援するために活用されます。

背景

「Y-森のコーヒー」のコーヒー豆は、ミャンマー国境近くのパヒ村で栽培し収穫されています。この村などには小学校以上の学校がありません。そのため、この若竹寮は、ワイズで牧師のヨハンさんの素晴らしい指導の下で、子供たちが一緒に住んで学校に通うことを歓迎できる居場所なのです。「Wakatake ホーム」は、1994年に熊本出身の故・谷口巳三郎農学博士の提案により、ヨハン牧師によって設立されました。神戸YMCAがこのルエン・タイの小屋を寄贈する1年前の開寮です。長年、熊本のグループや熊本YMCAが現在もこの寮への支援を続けてくれています。このプロジェクトは、コーヒーを販売することで利益を上げるだけでなく、

最も重要な事は、山岳民族のコーヒー生産者と家族にYMCAがケアを持続的に提供するという使命で、タイとその国境を越えて消費財のコーヒーを共有することで可能になっています。したがって、この「Y」プログラムは、コーヒー愛好家が一杯のコーヒーを楽しむことで、子供たちがさらなる教育を受けたりすることになる持続可能な支援資金の調達活動なのです。

最近、ドイツのワイズメンにもコーヒーを発送しましたので、世界中のYMCAとワイズメンズクラブが提供する特別な「Y」卸売価格で皆さんの独自の事業を支援する資金ファンド創りにも貢献できます。(「Y-森のコーヒー」に関する詳細な情報はチェンマイ・ワイズメンズクラブの「西村」までお問合せください: ysman.nishi@gmail.com)



1995年、ルエン・タイと呼ばれる木造家屋を神戸YMCAがワークキャンプと共に寄贈し、今はコーヒー・ハウスに



2021年3月のオープニング式にアカ族の生徒(若竹寮生)がお祝いのダンスを披露

<日本の皆さまへ>現在、日本では熊本、神戸、大阪YMCAが定期購入していただいておりますので、この「Y-森のコーヒー」を味わってみたい方は、お問合せください。また、このコーヒーを皆さまのYMCAやワイズで独自に支援されている事業の資金作りにご活用されたい場合は、特別Y卸売価格で1箱、20袋(豆、粉、ミックスでも可)単位でチェンライから郵送させていただきます。日本での希望上代価格は、1袋1,200円(250g)ですが、Y価格は、一袋795円(送料込、消費税別)で協力焙煎業者のオリエンタル・ファズ社の日本口座へのお振込でも決済できます。ご質問等、お気軽にお問合せください。

チェンマイクラブ 西村隆夫

YMI におけるファミリー・クラブ：コンセプトから実践まで

V・ジャスティン(ジャスティン・ベダシロモニー)、トリバンドラム

1983 年にインド地域が設立されるまで長期にわたり、インドのワイズメンズクラブの多くは、オーストラリア・アジア地域のインド・セイロン区の一部を構成していました。私が初めてトリバンドラム・ワイズメンズクラブに入会した 1961 年には、インドとセイロンを合わせても ワイズメンズクラブの数は、20 以下でした。

1970 年 5 月、ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)とインドYMCA 同盟は、インドとスリランカでワイズ運動を発展させるために、選ばれたクラブメンバーを訓練する目的で、(インド・タミルナドゥ州)ニルギリス地区ウェリントンで、6 日間の組織開発研修を共同で実施しました。各クラブは、この研修に参加するために1人か2人のメンバーを派遣するよう要請されました。筆者は、そのプログラムに参加し、ワイズ運動の多くの側面を学ぶ機会に恵まれました。そしてその後すぐに、1970-71年のトリバンドラム・ワイズメンズクラブの書記に選ばれ、同時に当時の理事であるセイロンのケネス・J・ソマナデルから8人の区事業主任のひとりに指名されました。

アイデアの誕生

1970-71年の第1回区役員会で、ソマナデル理事は、クラブの活動に、ワイズメネットやワイズメンの子どもたちを参加させる可能性をクラブが探るべきだと提案しました。児童福祉が専門であり、子供を持つ家庭人でもある私は、この提案を心に留め、トリバンドラムクラブの一部としてワイズメネットクラブとワイズリングズクラブの結成を検討するよう、クラブ会長を説得しました。この提案は、クラブ全体で心から歓迎され、1971年5月22日に20人のメンバーでトリバンドラム・ワイズメネットクラブが誕生しました。これは、インド・セイロン区では2つ目のワイズメネットクラブで、最初のは1970年にマドラスのクラブのひとつが組織したワイズメネットクラブでしたが、数年後に機能しなくなりました。その後、メンバーの子どもたち(ワイズリングズ)からなるクラブを設立するという責任を担い、1971年7月22日、29人のメンバーで、ワイズリングズクラブが正式に発足しました。記録のために申しますと、これは、世界初のワイズリングズクラブであり、現在もインド地域のみで存在しています。ワイズメネットクラブと異なって、ワイズリングズクラブは、YMIの一部ではありませんが、直後にコロンボでワイズリングズクラブが結成されました。

コンセプトの実現

この2つの組織の形成により、1971年にトリバンドラム・ワ

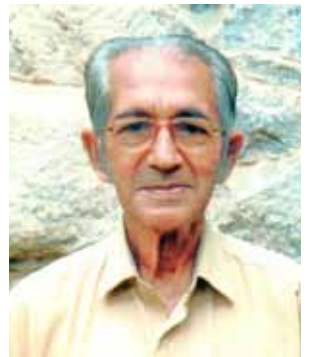
ジャスティン・ベダシロモニー氏は、南西インド区トリバンドラム・ワイズメンズクラブのメンバーであり、ワイズリングズクラブの創始者であると同時に、インドでファミリー・クラブを推進するアイデアを生み出した人物として高く評価されています。

イズメンズクラブは「ファミリー・クラブ」になったと言っても過言ではありません。ワイズメネットとワイズリングズは、家族として一緒にトリバンドラム・ワイズメンズクラブのミーティングやその他の活動に参加するようになりました。毎週行われていたクラブのティー・ミーティングは月に2回のディナー・ミーティングになりました。家族間の友情や親睦が深まり、メンバーは、子どもたちの個性やスキルを様々な形で伸ばすのにとても役立つことを知りました。その後すぐに、私は幸運にも1972年10月から約5年間、米国オハイオ州トレドに滞在することになりました。そこで私は、1973年にワイズメンズクラブ国際協会の最初のワイズメンズクラブであるトレド・ワイズメンズクラブのメンバーとなり、1974年から1977年まで書記としてそのクラブに貢献しました。その間、1974年にワシントンDCで開催された国際大会にトレドダウントOWN・ワイズクラブを代表して参加し、他国のワイズメンズクラブの活動について学び、また他国の友人を何人か作りました。

新たな提唱者

後に国際会長となったP・スクマラン博士は、ファミリー・クラブのコンセプトを大変気に入っていました。1978 年にインド区理事に就任した彼は、彼のホーム・クラブであるトリバンドラム・ワイズメンズクラブをモデルに、このコンセプトに基づいた新しいクラブの設立を熱心に提唱しました。トリバンドラム・ワイズメンズクラブは、トリバンドラム・ワイズメンズクラブがスポンサーとなり、インド区で2番目のファミリー・クラブとして設立されました。その後、各地でより多くのファミリー・クラブが結成されました。ワイズメネット、ワイズリングズ、ワイズユースが参加しているからこそ、今日インドやアジアの一部で、多くのワイズメンズクラブが活発に活動しているという事実があります。

場所によっては、優れた社会奉仕活動を行っている、活発なワイズリングズクラブやワイズユースクラブがあります。トリバンドラム・ワイズリングズクラブは、2021年7月22日に、アクティブなワイズリングズとワイズユースのセットで50周年を迎えます。インドで50年間、ワイズ運動の活発な要素として存在し続けてきたことは、決して小さな成果ではありません。私たちシニア世代は、ワイズメン、ワイズメネット、ワイズウーマンとして、子どもたちの良い人格を育て、世界を破壊から救うような、誠実な素晴らしいリーダーになるよう、ワイズリングズやワイズユースを導く義務があると信じています。



ワイズメンズクラブ国際協会国際議会 歴史的視点から 元国際会長ベンソン・ワブレ、ケニヤ

これは、ベンソン・ワブレ元国際会長によって編纂された国際議会の歴史に関する3回シリーズの第1回目の記事です。この編纂にあたってワブレ元国際会長は、ワイズメンズクラブ国際協会関連の書籍、マニュアル、方針、パンフレット、国際議会議事録を通読されました。この記事は、元々、2017年6月版「元国際会長ニュースレター」の編者である本人によって掲載されたものです。

創成期におけるワイズメンズクラブ国際協会の立法機関確立の過程

国際議会は、ワイズメンズクラブ国際協会 (YMI) の立法機関であり、YMI を構成するエリア (地域) の代表者 (会長) によって構成されています。国際議会は、長年に亘り YMI の活力ある変革に応じて頻繁に変化を遂げてきました。その誕生は、興味深いものです。

最初の国際憲法は、1922 年にアトランティックシティーにおいて採択されました。この国際憲法は、年次国際大会においてワイズメンズクラブの代表者によって選出された国際役員と理事に関して規定していました。それらの国際役員と理事が、後年に国際議会となる組織の前身である国際理事会 (IBD) を構成していました。国際理事会の最初のメンバーは、1992 年アトランティックシティー大会で選出されました。理事会の構成員は会長、3 人の副会長、書記兼会計と 3 人の一般理事であり、その主たる役割は YMI の事業、資産、ファンドの全般的な運営と管理でした。また IBD には名誉会長と直前会長の 2 人の元役員が含まれていました。

YMI に影響を与える変化、取り分け YMI が確実に世界中に広がるにつれて部と区の数が増加した事に伴って IBD の構成員は長年に亘って増減を繰り返してきました。

登録費が米 2 ドル 30 セントであったニュージャージー州カムデンで開催された 1926 年大会において重要な出来事がありました。YMI の創始者であるポール・ウィリアム・アレキサンダーが 3 年任期で理事会の全ての議決権を有する名誉会長を務める事が宣言されました。また登録費が米 3 ドル 8 セントであった 1929 年トロント大会において彼は、全ての議決権を有する終身会員となることが宣言されました。1931 年までに IBD は、選挙によって選ばれた 5 人の役員、6 人の理事、2 人の職権上の理事によって構成される 13 名から成る組織となりました。

マックリーリー計画

創成期において YMI は、誕生する部の増加に伴って急成長しました。部長は、影響力を持つ存在となり、地元社会における YMI の国際的代表者と見なされるようにな

りました。1931 年にクリーブランド大会が開催される頃までには、YMI の立法機関の組織改革の必要性が明白となりましたが、大会に参加する IBD の構成員、理事、部長の費用は、いわゆる「大会協同資金」によって賄われていました。その大会協同資金は、ほぼ底をつき、部と部長が増えるのに伴って制度の見直しが避けられなくなりました。ワイズメンズクラブ国際協会 (YMI) の立法・財政組織に影響を与える制度改革は、YMI の在り方を左右する画期的な事柄の一つであると考えられます。この制度改革の先頭に立ったのはリチャード・マックリーリーであり 1931 年クリーブランド大会で承認されました。またこの制度改革に伴う重要な変更を国際憲法に反映させる修正も承認されました。

区の増加と参画の拡大

この制度改革の大きな特徴は、区の数が増加するのに伴って YMI の将来の方向性を決める上で重要な役割を果たす区理事が顕著に誕生したことです。この改革は、マックリーリー計画として知られるようになりました。マックリーリーはその後 1931 年クリーブランド大会で国際会長に選出される事になります。1931 年以降、YMI の国際理事会は国際役員 (国際会長、名誉会長、直前国際会長、国際書記兼会計、複数の副会長) とそれまで選出されていた (3 名の) 一般理事に代わって区理事によって構成されるようになりました。

部や部長よりも権限を有する区の増加に伴い、区理事の数も増加し、ワイズ運動の組織にも更なる変革がなされ、区理事が文字通りワイズ運動の方向性を決定づける役割を担うようになりました。

YMI が成長するにつれて奉仕事業が立案・実施され、それらの奉仕活動の責任者が YMI の中で影響力を持つに至りました。それらの奉仕活動の実施責任者の何人かは、国際理事会の会議に出席するよう招聘されました。

次号に続く

考えていること

人生がもたらすものを認める度量を持とう

オーストラリア・ベンディゴ Y サービスクラブ、ブリテンエディター ダグ・ターンブル

ここ何年もの間、我がクラブにおいて、何人かのメンバーが、彼らがやろうとしている事が次第に出来なくなっているのを、私は、目撃してきました。この健康や肉体的状態の低下は、彼らがかつて出来ていたように、もはや、クラブ活動に貢献できないことを意味していました。このメンバーたちの様子を見ていても、それが時の流れの当然の結果であり、私自身の瘦せすぎな体も危険にさらされていることに思い至りませんでした。

昨年の6月、テニスを3セットやってから帰宅したのですが、骨が何かおかしいことに気が付きました。実際、翌朝には片方の足を、もう一方の足の前に出すことがほとんどできなかったのです。当然、医者に行くことになり、理学療養士、そしてその後は、脳神経外科医で、数えきれないテスト、スキャン、放射線骨スキャン等多くを行いました。診療所や検査施設を訪ねることに嫌気がさしていました！

理学療養士の最後の診察で、これ以上私に対しては何もできないと言われた時には、多少当惑したと言わざるを得ませんでした。

若者として、私は、「年寄」の人たちがどれほど彼らの病気や手術について話すかに、多少いら立っていました。(皆さんが、最近会話の話題に、健康、痛み等についてどれほど割っていたかを計算したことがお有りかと思いますが。)そして今、「年寄」の中の若者としていら立っていたことを、私自身がやっているのです。

ああ、優雅に年を取る！

私たちは、スコットランドに3年住んでいて、スコットランド国教会に通っていましたが、そこでは40年以上職に居た独身の牧師がいました。年を重ねる毎に、彼の祈りでよく使われた言葉のひとつは、「優雅に年を取る」でした。自分の健康状態や能力など、自分が引いたくじに腹を立てて、不機嫌な老人になってしまうことが嫌だったのです。私は、ウィリー・スティル牧師が気にしていたそのことを覚えていて、それを、私のその後の人生のスローガンとして保持していました。私は、決して、テニスが再びできるようにならないとか、結果を気にせずに行っていた庭いじりができなくなるなどと考えることを毛嫌いしていました。しかし、私は、自分ができること、上手にできることを探し、それらの能力に感謝したいと思っています。

私は、最近、繰り返し人間の身体に適用された物理の法則について読みました。それは、何年にも亘って私たちの体内の細胞は、入れ替わるという事です。確かに、ある細胞、例えば腹部の粘膜とか髪の毛は、早く成長し、早めに新しい細胞に入れ替わっていて、そのため、この2つの部分における化学療法には副作用があるとされています。それは、急成長する癌細胞を殺すために、無差別に、急成長する細胞をも殺してしまうからです。したがって、今の私は、かつての私ではないという

ことは、多くの点で正しいのです。しかし、私たちの体におけるこれらの変化に対する反応、特に年齢に関するものは、私たちの選択なのです。時には、それらの変化が私たちの脳を犯して(例えば認知症)、私たちが選択することを許さないということもあります。

しかし、私たち多くの者にとっては、人生がもたらすもの、そしてまだ保持していたり、これからまだ得られる新たな能力に依ったりして、私たちが得られるかもしれないものを再評価する能力があるのです。

ですので、もし皆さんがあるとき、私が自分の運命について不平を言っているのをお聞きになりましたら、どうぞ私に、私がここに何を書いたかを思い出させてください。



「世界を癒そう」(Heal the World: HTW)は、私たちの組織の中から専門的なボランティアとしてその専門的知見を使うことを約束したグローバルなネットワークで、最大限の効果と影響を得るために、YMCA やその他の外部のパートナーの支援と協力を得ています。

HTW は、以下の活動を行います。

- 緊急事態や危機の際に支援物資を提供します。
- 地元や国境を越えて家屋や共同体施設を建てたり、再建したりします。
- 世界中の低所得コミュニティにおける医療、基本的健康・衛生サービスを支援します。



インド:地域奉仕のいくつかの素晴らしい事例



手を差し伸べて:新しく設立したムンバイ・ワイズメンズクラブのメンバーと数人のムンバイ・ロータリアンは、サリー、文房具、スポーツ用品、毛布、ベビーホルスターなど、いくつかの生活必需品を手渡ために、街から遠く離れた部族区、ワダを旅しました。クラブのメンバーは、また高齢者のホームレスを支援している部族住宅事業の場所も訪れました。



がん治療事業:フィロン・ワイズメンズクラブは、進行中のがん治療事業で、がん患者に必要な治療援助を定期的に行っています。この写真は、治療継続のため、患者が部長から支援を受けているところです。

ホームレスのためのホーム:アラトゥパザ・ワイズメンズクラブ(南西インド区)は、「ホームレスのための家」という継続事業の一環として、この新しい家を必要としている人に寄贈しました。これは5番目に寄贈した家になります。



生活必需品の贈物:トリバンドラムノース・ワイズメンズクラブが、シャツ、タオル、石鹸、歯磨き粉など、各種の生活必需品と、いくつかの食料品を集めて、55人が収容されている市内の孤児院に手渡しているところです。

教育支援:トリバンドラム・ラッキーチャームズ・ワイズメンズクラブは、パンデミック後のロックダウン期間中にオンラインのクラスに参加出来るよう、遠隔地に住む、一番必要とする学生の一人に液晶テレビを寄贈しました。

日本:75 年後の広島での「I PRAY」上演

第 25 回目の「I PRAY」が 2020 年 8 月 23 日に上演されました。

「I PRAY」は 1945 年 8 月 6 日に広島に投下された原爆を題材に、ありふれた日常を一変させた核爆弾の恐ろしさ、平和の大切さ、戦争のない未来を願って演じられる創作劇です。広島 YMCA と広島・福山・呉・東広島・岩国みなみクラブが応援し、昨年は、被爆 75 年、「I PRAY」創設 25 年の節目で、西日本区から資金援助を得て実施されました。

コロナ禍で出演者は、一昨年の半分でしたが、320 人の市民に観劇いただきました。20 年以上前に出演した児童が、お母さんになって親子 2 代で出演してくれました。出演者は、練習以外にも「原爆の子」像を清掃したり、被爆者の話を聞いたりします。

私たちは、これからも広島の過去を学び、「当たり前の日常の大切さ」を感じ、若い世代に平和の重要性を伝えます。

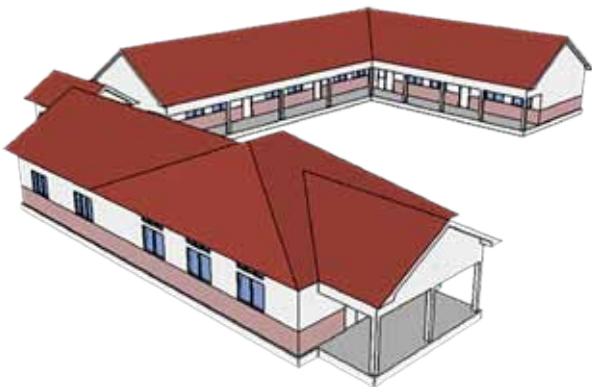
岩国みなみクラブ会長／元西日本区理事 高瀬稔彦



デンマーク:コンゴの難民児童学校

ワイズメンズクラブ国際協会・デンマーク区は、コンゴ民主共和国の難民キャンプに、デンマーク・ブレザレン宣教団と協力して学校を建設しています。これは 2019 - 20 年の区事業の 1 つで、300,000 デンマーク・クローネ (50,000 米ドル) の拠出がありましたが、コロナウイルスの影響で完成が遅れ、現在のところ、完成は 2021 年 9 月の予定です。

学校建設事業は、ルワンダとウガンダの国境近くのコンゴ民主共和国の難民の子供たち 300 人の生活に大きな変化をもたらすことでしょう。これらの子供たちは、家族と共に、内戦から逃げて来て、老朽化したテントやブリキの小屋にずっと住むことを余儀なくされていて戻る見込みがありません。



コンゴの学校の完成予想図



地元に焦点を当てて、 地球的な影響を与える



上の写真は、ウルリック・ラウリドセン国際事業主任とその孫がデンマークの地元の公園でゴミ収集をしているところです。彼は、すべてのクラブに対して、年間に少なくとも 1 回の「清掃」活動を実施するよう呼びかけています。例えば、地元の公園や海岸に捨てられたゴミを拾うために集うのです。他の NGO や同じ意識を持った団体と協力すると同時に、複数回の活動を奨励しています。「世界清掃プログラム」(Great Global Clean Up Programme) などを通じて、これらの事業をコーディネートし、広めることを考えてください。活動は、2021 年 4 月 18 日から 25 日の週に行う必要があります。4 月 22 日の「アース・デイ」を含めたその期間中に、いくつかの国際的な環境保護活動と監視活動が行われるためこの日程を選びました。

英国:パンデミックにめげず慈善奉仕活動を継続

英国ブリストルのキングズウッド・ワイズメンズクラブは、60年前のチャーター以来、ずっと募金活動を行なってきました。その結果、今日も地元、国中、さらに国際への寄付活動を続けられています。活動では、音楽関係のコンテスト開催、コーヒーやホットドッグの英国南岸の観光地客への販売、さらにクリスマスツリー販売など多くの資金作り活動を手がけて来ました。近年の活動のなかには、地元のコミュニティでの「クイズナイト」、「ビッグバンド」コンサートがありますが、コロナ禍のため、これらの行事を中止せざるを得なくなりました。さらに、2020年3月以降、毎月の夕食会も中止せざるを得なくなりました。また、地元の教会での毎土曜日の買い物客相手のコーヒーとケーキの販売も同じように中止に追い込まれました。



例会も対面での集まりが難しくなり、さらに、コーヒーを飲みながらの朝の会も難しく、代わって、毎土曜日にZoomを活用して集まることにしました。そのため、毎月の夕食会や朝の会の費用が不要になったので、その分を献金するよう

に奨励しました。この結果、いつもは事業会計から捻出していた代わりに、慈善支援を継続する資金を得ることができるようになりました。

2020年12月までに私たち会員から2,555英ポンドを集

めることに成功しました。また、従来、毎クリスマスには会員同士のクリスマスカードの交換が慣例でしたが、これを取りやめ、e-mailでの交換に切り替えました。そのカード費用を献金するように奨励した結果、210英ポンドを「ロールバックマラリア」献金に回すことができました。

英国の多くの慈善団体の支援が、今回のコロナ禍の影響から困難になっている現状ですが、幸い、私たちのキングズウッド・ワイズメンズクラブは、この難しい時期にかかわらず、国際協会へのいつもどおりの献金や2020/21下期のプログラムのため資金を確保できています。

キングズウッド・ワイズメンズクラブ 事業計画活動委員長
マイク・ベンドレイ



ボリビア:ティーンエイジャー、孤児、高齢者への支援が活動の重点

サンタクルス・デラシエラ・ワイズメンズクラブは、1959年3月に、ボリビア・サンタクルス市でチャーターされました。私たちのクラブのボランティアとしての活動は、以下の支援です。
*マドレ・マリアと呼ばれる未婚のティーンエイジャーの母親のための施設。30人の性的暴行を受けた12歳以下の女の子を保護しています。



サンタテレサ・デロスアンデレ施設に食料品の支援を行なうボランティア

*サンタテレサ・デロスアンデレと呼ばれる保護施設。脳性麻痺を持つ23人の孤児と53人の種々のハンディを持つ53人の高齢者の世話をしています。

*デオスノス・イルミネと呼ばれる高齢者施設。24人の高齢者の世話をしています。

私たちのクラブでは、これらの施設と共働して、彼らに精神的な支援、さらに、モラル、宗教的支えを提供しています。訪問して彼らを勇気づけ、食料、衣料、洗面道具も提供しています。これらの活動は、今のコロナ禍のもとでも続けられています。

私たちは、YMCAの会員ともオンラインで結ばれており、ワイズのラテンアメリカ地域の他のクラブともつながっています。ジュニファー・ジョーンズ直前国際会長からは、私たちの成し遂げた地域奉仕活動が表彰されると伝えられています。

クラブ会長 メリー・ド・グズマン

香港:祝福袋を配布



尖沙咀(チムサーチョイ)・ワイズメンズクラブと香港YMCAは、協力して香港YMCAの東涌(トンチャン)センターでセレモニーを行い、長沙湾(チュンサワン)と東涌(トンチャン)地区の低所得者層に「祝福袋」を配布しました。各祝福袋には、タイの香米1キログラム、キャノーラ油1本(600ミリリットル)、ビーフン1パック(454グラム)、ライスヌードル1パック(400グラム)、クラッカー1パック(350グラム)、フェイスマスク1パック(10枚)が入っていました。180人に配布し、その中には老人ホームに入居している弱い立場の単身高齢者、放課後児童養護施設の家族や児童開発基金(CDF: Child Development Fund)の支援を受けている家庭の方などが含まれていました。

出典:チムサーチョイ・ワイズメンズクラブのフェイスブックページより引用



エストニア: プロスポーツ選手を支援するチャリティくじ



ペルヌ・ワイズメンズクラブ(エストニア)のメンバーが目にしたのは、「赤ずきんちゃん」の新しい演出である「良い行動」という題の演劇でした。それは、エストニアのペルヌのリークラオール・スクールセンターで、クリスマスのお祝いの一環として生徒によって演じられました。ペルヌクラブのメンバーであるゲルト・ゲンタレンがクリスマスキャロルを歌ってくれました。また、チャリティ抽選会を実施し、その収益金は、クラブメンバーでプロのアーチェリー選手であるレーナ・パルナの、国際的な競技会への参加を支援するために使用されます。これまでに1,323ユーロを集めることができました。才能ある若者を支援できたことを誇りに思います。

ピーア・カルロセルグ、クラブ会長

アメリカ:ウェイクフィールド・クラブのクリスマスツリー販売



ウェイクフィールド・ワイズメンズクラブ恒例のYMCAのプログラムを支援するためのクリスマスツリー販売が11月から12月にかけて開催されました。クリスマスツリーやリースが不足していたにもかかわらず、また、今までにない価格にもかかわらず、調達したすべてのツリーとリースを販売することができました。

インド:チャリティデー開催



セーラムシティ・ワイズメンズクラブは、アンダーソン・エデュケーショナル&チャリタブル・トラストと共同でチャリティデーを開催し、女性にミシンを配布しました。また、市内近郊の村の50世帯以上に食料品を配布しました。

今を受け入れるということ コロナの時は私は、どのように活用したか 元地域会長 リタ・ヘティアラッチ STEP・YEEP 国際事業主任



2020 年初頭のある日、生後 2 ヶ月の女の子を持つ娘から電話があり、「ママ、月曜日まで島全体に外出禁止令が出るから、うちのベビーシッターは、午後 5 時までに急いで帰らないといけないの。ベビーシッターが早く家に帰られるように早く帰ってきて。」と言われました。その日は金曜日だったので、私はすぐに週末のための食料品の買い物をし、急いで彼女のもとに向かいました。その外出禁止令は、月曜日になっても解除されず、何週間も何ヶ月も続きました。

世界的なコロナウイルスの大流行のため、人々が屋内に閉じ込められている中、私たちは、周りの静けさと空虚さに驚きました。コロンボの街の中心部に住み、窓の外を見ると、何もかもが閉ざされ、空は青く澄み渡り、絶え間なく交通量の多い道路が、静かになっているのを見て、私は不思議なことに、「神様は、自分の民をこれ以上の争いから救うために、世界全体を閉じてしまったのだ。」と思いました。

さて、国境が閉ざされ、経済が悪化していく中で、世界の状況に圧倒されずにはいられませんでした。しかし、実際のところ、私たちには怠ける時間は、ありませんでした。生まれたばかりの赤ちゃんのおかげで、私たちは毎日、24 時間忙しく過ごすことができました。

食料品や薬など、必要なものはすべて玄関先で受け取るというパターンになりました。

ようこそ自主隔離

夫の職場であるマカオ聖公会大学から突然メールが届きました。メールの内容は、駐在員が仕事に戻れるように、マカオ政庁が 1 ヶ月間だけ香港経由で国境を開けたというものでした。二人の娘は、このような状況においては、私も同行すべきだと強く主張しました。そして、私たちは、無事にマカオに到着しました。私たちは、マカオ政庁の好意で 2 週間、シェラトンランドホテルに隔離されていましたユース海外短期交流事業 (STEP) とワイズメン子弟高校留学生交換プログラム (YEEP) は、旅行を伴うため中断されましたが、隔離期間中も国際事業主任の責務を果たすことができました。

この 2 つの素晴らしいプログラムの恩恵を受けた過去の STEP と YEEP の学生たちのデータベースを整理する時間を確保するのにこれまでいつも苦労していました。ホテルの部屋に閉じこもっていても、その時間を生産的に使えないわけではありません。私はこの隔離された時間を利用して、多くの古い文書に目を通しました。特に古い『Youth World』誌に目を通しました。適切な保存記録データがないので YEEP に参加した若い人たちの名前を探しました。その作業は、今も続けられています。

国際委員会と地域委員会が Zoom で機能するようになりました。今日まで、様々な委員会やタスクフォースを支援する何人もの YMI のリーダーと会い続けています。他にもいくつかのオン

ラインミーティングを行っています。これらの他にも、バンガロール第 2 部のプログラムで「母性の尊重と母への感謝」というテーマで講演しました。また、フィリピンやその他の国の友人たちとバンガロールで行われたいくつかの Zoom ミーティングに招待されたことは、他にはない経験でした。このようなイベントに参加すると家にいながらにして、旅費補助やロジスティックスの心配をせずに、自宅でイベントに参加することが「新しい常識」になっています。

これは、多くの人にとって挑戦的でトラウマにもなりがちですが、貴重な資源である時間を活用するチャンスでもあることを教えてくれました。新型コロナウイルスは、多くのワイズメン・リーダーたちとこれまで以上に頻繁に会うための積極的な参加への道を開いてくれました。ストレスや不安がある時でも、気分を高めるために積極的に行動することができることを信じています。



ワイズメンズクラブ
国際協会

情報の塊 00

少量ずつの情報

「少量ずつの情報」—これらの情報源は、そう呼ばれるかもしれませんが。ワイズ運動に関する情報は、ウェブサイトやその他の場所にたくさんあります。しかし、新規会員や潜在的な会員が、歴史や起源、あるいは特定のプロジェクトやプログラムについて具体的な質問をしたときに、答えは簡単には見つけられないかもしれません。

これは、私たちの運動のあらゆるレベルで見られることで、バンガロール第 2 部 (インド地域) も例外ではありません。約 250 人のメンバーが常に正しい情報にアクセスする必要があることから、部長は、出版物とウェビナーの両方で構成されている「会員強化」プログラムを立ち上げることを思いつきました。

求められているのは、正確な情報であるということに気づき、それを「少量ずつ」提供するというアイデアが生まれました。それゆえに一度に 200 語以内で、一定の間隔をおいて、ワイズ運動に関する重要な情報を発信しようと考えました。「インフォメーション・ナゲット」と呼ばれる、まさに貴重な情報の塊 (ナゲット) です。

YMI の様々な側面に関するこのような有用なナゲットは、現在 50 個が国際本部のウェブサイト (<https://www.ysmen.org/training/information-nuggets/>) や YMI の FB ページに掲載されています。

Originally released by Bangalore District II as part of its member enrichment programme over a period of 150 days in 2020-21

思い出の場所

思いで深いスリランカへの BF 訪問
国際事業主任、元地域会長 ウルリック・ラウリドセン

1982年、私は、妻と一緒にBF代表としてインドとスリランカを訪問致しました。沢山の楽しい経験を致しました。その内のいくつかは、今でも私の記憶に残っています。私がスリランカに滞在した短い間のバットಿಕカローのワイズメンを訪問したことを思い出します。

私たちは、そこに2日間滞在しました。セルヴァナヤガムのワイズメンが特別なカヌーで私たちがサンゴ礁を見るために海に連れていってくれました。夜中の12時に私たちは、橋の上に立って、「唄う魚」を聞きました。翌日、私たちは、ワイズメンが支援をしているラマクリシュナ児童養護施設に子供たちを訪ねました。

土曜日の夕方、私たちは、コロンボ行きの列車に乗りました。深夜、列車は、小さな駅に停車しました。何が起こったのか分からずにただ座っていました。後で誰かが、その地域でダムが決壊したので、夜の移動は、危険だと教えてくれました。私たちは、荷物のせいで眠れませんでした。約3時間後、一人の男性がやって来て、「デンマークから来たのか?」と聞かれました。私たちがうなずくと、彼は「外で女性が待っているのについて来てくれ。」と言いました。私たちは、荷物を全て持ち、彼について行きました。

私たちは、クルネガラから来たロウィーナに会えて幸せでした。彼女は、古いフォルクスワーゲン・ビートル(車の後ろにエンジンが付いているもの)に乗ってきていました。後部座席にほとんどの荷物を置き、膝の上にスーツケースを置いて、彼女たちの隣に座りました。妻は、前の席に座り、いくつかの荷物を持っていました。ダムの決壊で道路は冠水しており、車内には10センチほどの水が溜まっていたので、私たちは、靴を脱がなければなりませんでした。

私たちが動き出したところ、どこからともなく一人の男性が現れました。彼は、ここから遠くない所に大きな湖があるので気を付けた方が良くと忠告してくれました。彼は、車の前に出て行き、膝まで水に浸かった状態で約500メートルの距離を歩きました。車の中に水が入ってきましたが、私たちは無事で、すぐに乾いた場所に到着しました。



クルネガラでは、ホストと一緒に安心して食事を楽しみました。

車のエンジンが最後まで完全に作動したのは、奇跡的でした。私たちは、クルネガラに到着し、アナンダとロウェナ・ジャチレケの家では、数日前に過ごした部屋を与えられました。そこからキャンディに行き、さらにコロンボに行きました。ここでは私たちは、ワイズメンのランカ・ネシアに世話になりました。その24時間後に私たちが乗っていた列車がコロンボに到着したと言う新聞記事を読みました。あの夜、ホストが私たちを助けてくれたのは幸いでした。さもないと、私たちは、あの夜、異国の地で立ち往生していたでしょう。

何年か後、カナダのフレデリクトンで開催されたワイズメンズクラブ国際協会国際大会でランカ・ネシアに会いました。彼は、私に、1983年にスリランカで内戦が始まり、ある事情からスリランカを離れ、シンガポール経由でカナダに向かわなければならなかったと話してくれました。



ランカ・ネシアと一緒にモラトゥワの学校を訪問

公告

CS 表彰

あなたのクラブ、部、区、地域では、今年度、国際協会の役員の注意を引くような特別な活動を行いましたか? 2020/21 年度の CS 表彰の選考対象になるプロジェクトを遠慮なく申請して下さい。困っている人のために良い仕事を続けるだけでなく、皆さまの仕事を私たちに知らせ、さらに発展させて下さい。この様にして私たちは、組織を構築して行くのです。

賞には 2 つのカテゴリーがあります。

- ・ 単独部門:一つのクラブが企画し、実施した CS 活動に対して
- ・ 集団部門:同じ部、区、地域に属する複数のクラブが関わった CS 活動に対して

申請書は 6 月 15 日までに提出して下さい。

(参照: <https://www.ysmen.org/community-service/2021>)

木が倒れる時

私が高校生だった時、科学の先生が私たちに興味深い質問を投げかけました。もし森の中で一本の木が倒れた時、その場に聞く人がいなければ何か音がするだろうか？私たち生徒は、この質問について長い時間をかけて真剣に議論を重ねた末に、何の音もしないだろうという結論に達しました。何故でしょうか？私たちの結論は、音は空気振動によって造られるものであり、それらの振動を音に変換することのできる鼓膜のような物に届いて初めて音を生み出すからです。したがって、もし森の中で一本の木が倒れても、その場にその音を聞く者がいなければ、空気が振動するだけで無音であるからです。



高校を卒業して以来、時折私は、この質問について考えることがあるのですが、それは、かなり異なる文脈においてです。アフガニスタンのある母親が、飢えと病気で自分の幼い子供が亡くなるのを目の当たりにして、必死の叫び声をあげる時、誰も耳を傾けていなければどんな音も聞こえないのでしょうか？ビルマのある家族が迫害の恐怖から逃れようとする時、彼らの叫びに耳を傾けようとする人がいなければ、苦悩する彼らの唇からどんな音も発せられないのでしょうか？銃撃された直後の瀕死の息子を腕に抱えているあるパキスタン人男性が、怒りと苦悩で叫んでいる時、私たちの誰もそれに耳を傾けようとしないなら、彼の喉から、何も発せられないのでしょうか？

実は、私たちは、聞いているのです。私たちがラジオやテレビをつけている時、その気があれば彼らの発する声を聞くことができるのです。サイモンとガーファンクルの歌にあるように、恐らく私たちは、注意深く耳を傾けているのではなく、単に聞き流しているだけなのです。

私たちのグローバルな社会を構成するこれらの人たちの声に真に耳を傾け、それを知るために私たちには何が必要なのでしょう？

しばらく前の事です、生まれたばかりの赤ちゃんのお祝いをするために友人の自宅にいました。赤ちゃんが別の部屋で寝ている間に、私たち全員が様々な話題で大いに盛り上がっていました。すると突然、赤ちゃんの母親が立ち上がったのです。どうしたのですかと全員が心配して尋ねると、彼女は事も無げに、別にと答えました。赤ちゃんの鳴き声が聞こえたので、行って抱っこしようと思ったのと言ったの

です。

母親と同じ部屋に一緒に居たにもかかわらず、赤ちゃんの音が聞こえた人は誰もいなかったのです。あまりにも会話に没頭していたので、赤ちゃんの声に耳を傾けることができなかったのです。しかし母親の耳は、研ぎ澄まされていたので



す。彼女は、私たちの会話に耳を傾けていただけでなく、赤ちゃんの発する音にも耳を傾けていたのです。

それこそが私たち全員が養うべき感受性なのです。私たちは、仕事や自分の属する地域社会の活動に没頭し続ける事はできますが、世界の恵まれない人たちの声に耳を傾ける準備ができていなければなりません。アフガニスタンの母親が必死の叫び声を上げるとき、その声を単に聞き流すのではなく、彼女の子供が生き延びて彼女の尊厳と人間性を守る世界で成長できるように、彼女が必要とするものに耳を傾ける必要があります。ビルマの家族が迫害を逃れる時、彼らの叫びの持つ意味に耳を傾け、彼らが私たち自身の家族の一員であるかのように対応しなければなりません。パレスチナの男性が怒りと苦悩の叫びを上げるとき、彼の息子を安全で平和な自宅に連れて帰ることができるように争いを終結させるべく介入しなければなりません。現世界の暴力の矢面に立って苦しんでいる人たちの注意を促す叫びに真に耳を傾けると、私たち全員を利する積極的平和的方法で対応することができるのです。そうすることによって、キリストの教えにも応える事になるのです。なぜなら、かつてキリストは、私たちがこの世界の最も小さき者にする事は、私自身にすることだとおっしゃったからです。

* マックス・エディガーは、カンボジアの「平和の学校」の運営責任者です。彼は、長年のブロガーであり、この記事は、以前のブログに掲載された記事の一つで <http://calebandshalev.wordpress.com/> から転載されたものです。



クラブの指導的立場にある皆さんに、実施した活動に関する記事を1枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて送られることをお勧めします。記事は、150語(英語)以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな私たちの運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。記事と写真は www.ysmen.org/ymiworld にお送り下さい。

次号掲載記事の提出締切日:2021年5月31日

1951-1962 年の国際会長

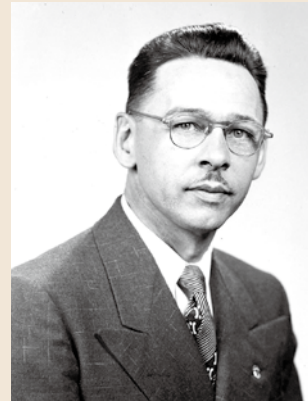


25.ジェイコブ・E・マッコリー
(1901-1973)
1950-1951の国際会長
ホームクラブ:ハリスバーグ
(米国・ペンシルベニア州)
彼は、「ジョリー・ジェイク」とし
ばしば呼ばれた。ペンシルベニア
州ハリスバーグに住み、彼と彼の
妻は、製造会社のセールスマン
で地元のYMCA運動に携わっ
た。

28.レスター・L・ハンフリー
(1904-1994)
1953-1954の国際会長
ホームクラブ:ロングビーチ
(米国・カリフォルニア州)
銀行家。国際会長の任期
中YMCAのある国を6か月
間、訪問した。



26.ロイヤル・H・フロスト・
ジュニア(1906-1970)
1951-1952の国際会長
ホームクラブ:シュレヴポート
(米国・ルイジアナ州)
会計士で、家族経営の会
社を所有。「ベター・ビジネス・
ビューロー」を3年間率いた。
彼は親しみを込めて「ジャック」
フロストと呼ばれていた。



29. ゴードン・ストウ
(1913-2007)
1954-1955の国際会長
ホームクラブ:ランシング
(米国・ミシガン州)
建築家。国際協会が自分
たちのオフィスビルを建築す
ることを決めたとき、イリノイ州・
オークパークのビルを設計し
た。



27.ゴードン・F・マクラリー
(1917-1985)
1952-1953の国際会長
ホームクラブ:エドモントン
(カナダ・アルバータ州)
会計士であった。

30.マルコム・S・バウマン
(1921-1981)
1955-56の国際会長
マルコムは、身障者の水泳の
コーチとして知られ、カナダのス
ポーツ殿堂入りを果たした。

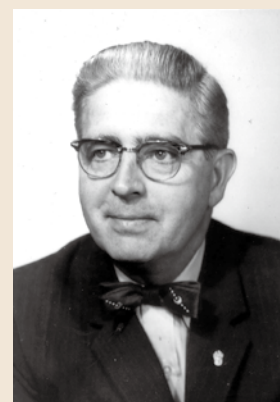


1951-1962 年の国際会長



31.エドワード・S・ミラー
(1918-1997)
1956-1957の国際会長
ホームクラブ:ミルヴィル
(米国・ニュージャージー州)
法律家でニュージャージー州
の幾つかの郡で判事を務めた。

34.ウィリアム・A・プレチャー
(1905-1980)
1959-1960の国際会長
ホームクラブ:デトロイト
(米国・ミシガン州)
生涯を通じて、YMCAに関
わった。



32.ロバート・J・シャーマン
(1920-2004)
1957-1958の国際会長
ホームクラブ:ミネアポリス
(米国・ミネソタ州)

37歳という最も若い国際
会長のひとりであった。9歳か
らYMCAに関わっていて、
YMCAを愛していた。



35.チャールズ・S・トンプソン
(1910-2005)
1960-1961の国際会長
ホームクラブ:ステューベンヴィル
(米国・オハイオ州)



33.ジョン・ポールソン
1958-1959の国際会長
ホームクラブ:ウィットティア
(米国・カリフォルニア州)
ミネソタ州生まれ、アイオワ
に住み、カリフォルニアに定住し
た。

36.ハーモン・S・ウイルキンソン
(1912-2006)
1961-1962の国際会長
ホームクラブ:ウィットティア
(米国・カリフォルニア州)
リネン類、タオル製造会社に
勤務。彼は、アメリカ人の両親の
もと、カナダのエドモントンで生ま
れた。



100 YEARS! 100 HONORARY MEMBERS!

100 年! 100 人の名誉会員!



100

since 1922

2,500 米ドルを 100 周年特別基金
に寄付することによって、
ワイズメンズクラブ国際協会の
名誉会員として認められます。

ACT NOW!

今、行動を!

BECOME

ご自身がぜひ。
**AN
HONORARY
MEMBER**

NOMINATE

または、どなたかを
推薦してください。



今日、お申し込みください。

www.ysmen.org/honorary-membership